

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.77 - 2015年5月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



世界中どここの飛行場でも、用事で出かけて長い待ち時間を過
ごしていると、あらゆる言葉で“最終案内”の放送が聞こえ

てきます。少々よそ見している人、あるいは眠りこんでしまった乗客に呼びかけているのです。私はイエスのたとえ話を思い出します。「……さらに5時ごろ、出かけると、ほかの人たちが立っていたので……主人は彼らに、『あなた方もどう園に行きなさい』と言った。」(マタイ20・6-7)

すべての民へ ad gentes、国を出て ad exteros、生涯をささげ ad vitam 宣教する召命は、サレジオ会員の召命の旅で、いつ呼びかけられるかわかりません。床屋でポレティーノ・サレジオーノを読んで呼びかけを聞いた人もいれば、目的もなくデジタル大陸をサーフィンしていて“ドン・ボスコ”に出会い、呼びかけを聞いた人もいます。

今年、2015年の第146回宣教派遣は、すでに形が見えつつあります：あらゆる大陸から召し出され、あらゆる大陸に遣わされる！

この5月に、扶助者マリアは、中央・北ヨーロッパ地域の若者に第一次福音宣教を行う用意のあるサレジオ会員を探しています。あなたはどうか？

これは“出発最終案内”です！ 良い旅を！
実り豊かなサレジオ・ミッションの保護者の月をお過ごしください！

出発最終案内！

J. Basanes

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

宣教師研修コースのお知らせ

第3回インターリージョナル（諸地域合同）宣教師生涯養成コースが、2015年8月1日から29日にかけて、インド、マウライ・シロンの Mathias Institute で開催されます。研修では、3週間、集中的な宣教についての学び・考察と宣教体験の分かち合いを行います。第4週は、聖地巡礼を行います。このコースは、アフリカ、アジア、オセアニアの英語圏のサレジオ家族、すべてのメンバーに開かれています。昨年は、エクアドル・キートのサレジオ生涯養成地域センターでも、南米サウスコーンとインター・アメリカ地域のため、2年に一度の「宣教師生涯養成コース」が開催されました。次回は2016年になります。一方今年も、ローマの教皇庁立サレジオ大学での宣教師研修コース（9月-12月）は開催されません。

宣教部門 ジョゼ・アネクツィカッティル神父



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ・シスターズ会員、福者マリア・ロメロ・メネセス（1902-1977）の霊的著作の中に、おとめマリアについてのさまざまな考察や祈りがあります：「マリア、わが甘美なる母、ごあいさつ申し上げます！ 私のごあいさつを、イエスに取りなしてください-おおマリア様、あなたの祝福が、夜も昼も、働く時も休む時も、生きる時も死の時も、私に寄り添ってくれますように。おお、わが母よ、私の手が為す前に、あなたのみ手が為されますように。すべての祝福された靈魂、天国の天使、聖人たち一人ひとりのすべての愛をもって、しかし何よりも、父と子と聖霊の愛をもって、私があなたを愛することを、思い起こしてください。……私が、あなたご自身のみ心のうちなるイエスのみ心のうちに隠れて生きていることを思い起こしてください。あなたが聖霊の働きによって、イエスと共に、イエスのように、イエスのうちに、イエスのため、イエスの栄光のために、私を形づくられるように。そうです、わが女王、わが尊い王女様、わが貴婦人、わがなぐさめ、幸い、喜び、楽しみ、宝、イエスと私の心を魅了する方。あなたはすべて私のもの、私はすべてあなたのもの、生きる時も、死の時も、時間の中で、そして永遠に。」



宣教師として、苦しみは 神に愛されているしるしであることを学んだ

私

が8歳のとき、アフリカの貧しい子どもたちについてのビデオを私たちに見せた後で、先生は尋ねました：「今見たこのアフリカの栄養失調の子どもたちを助けるために、何ができると思う？」私は言いました。「えーと、古紙や鉄くずや中古の服を集めて、それを売って、お金を宣教師に送ることができます。」「素晴らしい答えですね、アンジェロ！」と先生は言いました。「でも宣教地を助けるもっと良い方法は、宣教師として宣教地に行くことです！」その言葉は稲妻のように私を打ちのめしました

た！ 一途な心で、私は自分に言いました：「宣教師になりたい！」司祭になること、修道者になることについて、何もわかっていませんでしたが。私にとって宣教師は、ジャングルに分け入るために長旅をし、野生動物から身を守り、もちろん、聖堂を建てたりたくさんの人に洗礼を授けたりする人のことでした。

その後、教会の神父様は私をイヴリアのサレジオ宣教師志願院に導き、私は17歳のとき、宣教師としてタイに派遣され、タイで22年間働きました。私はプロジェクト・アフリカを開始すると総長の呼びかけに応え、1981年に志願し、子どものころ投げかけられた挑戦は現実のものとなりました。翌年、エチオピアのメケレに赴任しました。2年後、1984-1985年、大飢饉が起こり、飢えや病気のために1400万人が犠牲になりました。救援・再定住事業全体の指揮をとった二人のサレジオ会員、チェザレ・ブッコ修士とジュゼッペ・レザ修士と共に、私は働きました。この悲劇は「We are the World, we are the Children」の歌によって消えることのない記憶となっています。

1996年、私はエリトリアのサレジオ会の新たな拠点に派遣されました。今、そこには3つのサレジオ会共同体があります。2008年、私はほかの22人の宣教師たちと共にエリトリアから国外追放されました。それ以降、エチオピアの「ボスコ子どもセンター」で、ストリート・チルドレンのために働いています。私たちは夜間、アジスアベバの蒸し暑い通りで子どもたちに会い、センターに受け入れます。3年をかけ、子どもたちは学校へ通ったり、手に職をつけたりし、家族の元に帰るようになります。

人々は親しみをこめて私をアッパ・メラクと呼んでくれますが、新たに学んだこの言語で自分を十分に表現するのは、私にとって今も大きな挑戦です。完全に身につけていない言葉をたどたどしく使う自分を謙遜に受け入れなければなりません、自分自身の生き方が愛と信仰の信頼できるあかしになるとき、もっと豊かな使徒的実りを得られるということに気づきました。

宣教師としての55年の生活でいちばん大きな喜びを与えてくれるのは、貧しく、困窮する人々、特に子どもたちを、飢饉のときに確実な死から救うことができたということだけではありません。皮肉にもそれは、盗賊に撃たれ、身ぐるみ剥かれ、骨折した足で何もない荒野に一人取り残されるという大きな苦しみを体験したことです。最初の本能的な反抗の心は（「主よ、あなたのために働いているのに、なぜ私が？」）、「キリストと共に苦しむように選ばれた」と気づいたことで、大きな平和と深い喜びの体験に変容されたのです。私が撃たれたと聞いて手紙をくださったカルカッタのマザー・テレサの言葉を思い出します「**勇気を出してください、アンジェロ神父様！ 苦しみは神に愛されているしるしです**」！

最後に、宣教師になるように主に呼ばれていると感じる皆さんを励ましたいと思います。エリのサムエルへの言葉です。「主が再びお前を呼ぶなら、こう答えなさい。『主よ、お話しください、僕は聞いております！』」そして答える勇気を持ってください。「主よ、私はここにあります、私をお遣わしてください！」

イタリア出身、エチオピアの宣教師
アンジェロ・レガッツォ神父



サレジオ会の宣教の意向

中央・北ヨーロッパ地域における第一次福音宣教のために

中央・北ヨーロッパ地域のサレジオ会員が、世俗化した社会の中で、福音の価値を表して生きることによって、第一次福音宣教を促進しますように。

聖ヨハネ・パウロ二世が『ヨーロッパの教会 Ecclesia in Europa』46項に書いているように、「ヨーロッパのさまざまな場で、第一次福音宣教が必要です：洗礼を受けていない人の数は増えています。それは、他の宗教をもつ移民が多くなっていること、また伝統的にキリスト教の家庭に生まれる子どもたちが、共産主義の支配の結果、あるいは宗教への無関心の広がり、洗礼を受けていないこと、その両方の理由によります。……“旧”大陸でも、真の“すべての民への宣教 missio ad gentes”が必要な、広大な社会的、文化的領域があるのです。」

